

(2019年度CS研合宿研修会パラレルセッション)

【テーマ】事務・図書館・システムの関連性を学ぶ～相互理解と未来創造～

【主催】事務システム分科会・図書館分科会

活動報告

日時：2019年8月28日（水）9:00 ～ 15:30

場所：Royal Hotel 長野「白馬」

出席者：37名

1. 研究内容

教務、図書館双方の業務の関連性を理解し、教務、図書館、システム等、各部門の業務連携の「今」を理解し、共通課題やその解決を模索しました。

2. スケジュール

9:00～「アイスブレイク」

9:20～「相互理解」（全体会）

教務の仕事、図書館の仕事、システムの立場からの知見等、事前に準備した「ネタ帳」を基に、参加者が抱えている疑問・質問に対し、それぞれの立場から説明を行い、意見交換。

10:00～「課題抽出」（グループワーク①）

両分科会のメンバーが混在したグループを形成し、相互理解に基づき、共通で抱えている課題をディスカッションし、最終的にはグループで一つの課題を抽出。

午前の最後では、各グループからグループワークの成果と抽出した課題を発表。

少人数でコアなディスカッションができるとともに、お互いの課題をすり合わせ、共通項を抽出。

13:00～「業務連携」

富士通株式会社より（事例紹介）

データ連携、シラバス、学生へのお知らせや通知機能等、ベンダーの立場から教務、図書館の業務連携の「今」と「課題」等をご紹介します。

13:30～「未来創造」（グループワーク②）

グループを再構成し、グループワーク①で抽出した課題を題材に、

（1）課題解決に向けた取り組み、（2）あるべき姿の確認、（3）未来創造等についてディスカッション。相互理解、業務連携の内容を経て、「未来志向」で今後の教務、図書館業務を創造！

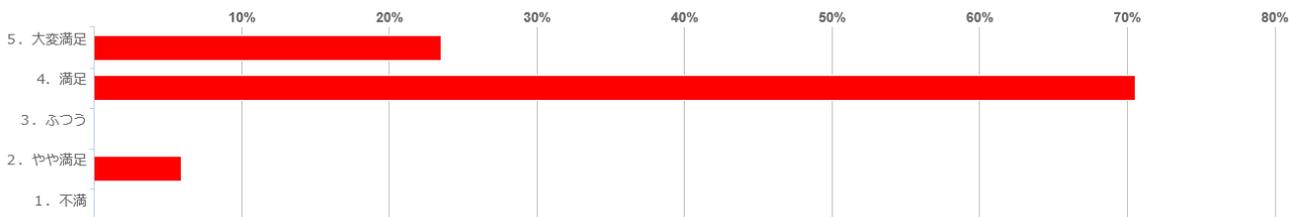
15:00～「グループワーク発表」（まとめ）

グループワーク②の内容を発表し、グループ間での意見交換と、一日取り組んだ成果等をシェア。



3. アンケート結果【回答数17】

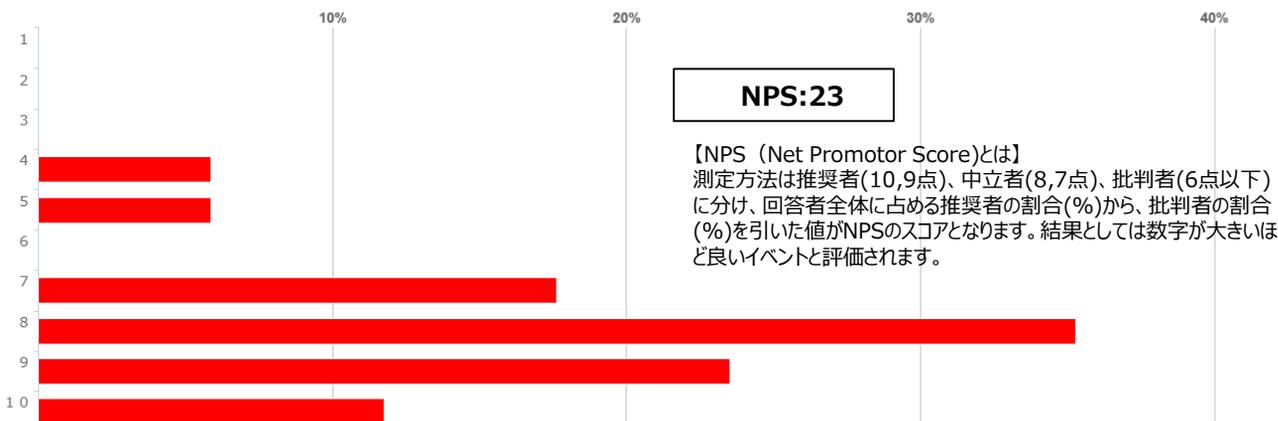
■ 本日の分科会「プログラム内容」についての満足度をお選びください(5点満点)



■ 上記の理由

- ✓ 相互理解は発言者が特定の方だけだったのでGWでもよかったのではないと思う。
- ✓ 共通項を再確認できた。
- ✓ これまでの業務経験を通じて自分には関わりのないテーマのため。

■ 今回の合宿研修会を、どのくらい他の人に推奨したいとおもいますか？ 0(おすすめしない) ～10(おすすめしたい)



■ NPSの点を付けた理由を具体的にお書きください

理由	NPSの回答
✓ 教務システムと図書システムの内容とは少しはなれてしまったが、有意義であったため。	8
✓ 他大学の方、企業の方々と交流ができる。ディスカッションの場が貴重。	8
✓ 課題意識を持っていない人にこそCS研に参加が必要かも。	8
✓ 交流・他大学事例。	8
✓ 課題を持って日常業務にあたる意識付けになると思う。	8
✓ 内容は大変満足なのですが、参加大学少し少なかったため。	7
✓ 部署が違ふことで、仕事の取組方や考えなどの違いがわかってよかった。	9
✓ 他大学の方、他部署の方との交流の場となるため。	9
✓ ブース出展の業者の方から効率的にお話をうかがうことができた。他大学の事例を共有できた。	7
✓ 大学職員として必要な知識を得ることができるから。	7
✓ 他部署（しかも他大学）の方とこんなに時間をかけて話すことはあまりない機会のため、非常にためになったから。	10
✓ 部署、大学間を超えた議論ができたため。	9
✓ 課題解決のテーマ→CS研に参加させる。	10
✓ 業者の立場として参加しましたが、たくさんの方々と交流ができ、よかったです。	5

■ 本日の分科会を実施して、開催テーマに対して得られた研究成果(疑問や課題等含めて)をお書きください

- ✓ 大学を良くして行こうという共通認識を再確認できた。図書館側から教務に伝えたいことを聞いた。
- ✓ データも重要性。部署連携の必要性。
- ✓ 異なる担当業務、富士通様、協賛企業様から様々な意見を聞くことができた。
- ✓ 情報を活用することで、働き方をかえることができそうであると気づかされたことを学内で活かしていきたいと思いました。
- ✓ 議論したものを学内で展開しようと思います。
- ✓ 分科会の共同開催は良かった。

■ 次回以降に取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- ✓ 出席システムの運用事例・問題点
- ✓ IR、教学改革

4. 参加校 [10校15名] ・参加企業[4社22名] ・参加総数[37名]

亜細亜大学[1]
神田外語大学[1]
共立女子大学[2]
芝浦工業大学[1]
清泉女子大学[1]
千葉工業大学[3]
中部大学[1]
東海大学[3]
立命館大学[1]
龍谷大学[1]

(株) インフィニテック[1]
一般社団法人 ファーストスタープロジェクト [1]
富士電機ITソリューション (株) [1]
富士通 (株) [19]

5. 所感

今回これまでにない新しい試みとして、教務事務、図書館といった別々の役割を担う教職員の方、あるいはこれら業務に関連する製品・ソリューションを展開している企業が時間を共有し、お互いに共通の課題を見出すところから始め、課題解決策の検討までを実践しました。それぞれ三つのグループに分かれ別々のテーマについてワークショップを展開し、その過程においては参加メンバーの方々のほとんど全員の方が積極的にご自身の考えを披露し、かつ他の人の声を熱心に聞いておられ、非常に熱のこもった時間を共有することができたのではないのでしょうか？

今回別々の部署の方が集まりましたが、プログラム内における富士通からのプレゼンテーションにあったように、文科省から発信された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に記載されている通り、大学間はもちろん、大学内部での連携・共有といった活動が非常に重要になってくるといわれる中、今回のような部門をまたいでの時間・課題の共有という試みは、まさにこれからの大学のあるべき姿の第一歩として非常に有意義なものになったのではないかと思います。

これからも継続してこのような分科会を事務、図書館だけではなくCS研全体に広げていくことで、参加大学様、賛助会員の皆様の普段のご活動に必ずや活かしていただけるものと期待しております。

(富士通 文教ビジネス推進統括部 ビジネス企画部 柴草)